

EVOLUTION

Getting Started

初級編マニュアル

UC-33e



www.evolution.co.uk

M-AUDIO
J A P A N

はじめに

Evolution UC-33eをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この製品を使用して、PC/MACのソフトウェアをコントロールしたり、他のシンセサイザや音源モジュール、ドラムマシン、サンプラーなどの外部MIDI機器をコントロールしたりすることができます。

UC-33eは、多種多様なパラメータをコントロールすることができます。MIDI CCデータやRPN/NRPNデータ、MIDIバンクチェンジLSB/MSB、16chでのプログラムチェンジを送出することができるので、UC-33eだけで簡単にMIDIシステムをコントロールすることができます。

シーケンサソフトウェアやバーチャルインストゥルメントをご使用の場合は、UC-33eのプリセットメモリーをすぐにご利用頂けます。コントローラ類は、ご使用のソフトウェアにアサインされています。また、任意の機能をアサインして、33のメモリーロケーションのいずれかにセットアップ状態を保存することもできます。

ここでは、UC-33eに用意されたパワフルな機能をご紹介します。

UC-33eの主な機能

ポート：

- MIDI 出力
- MIDI 入力
- USB MIDI 入出力

使用電源：

- USB からの電源
- DC 電源アダプタ（USBを使用しない場合）

コントローラ：

- プログラミング可能な24個のロータリーコントローラ
- プログラミング可能な9本のスライダ
- プログラミング可能な14個のボタン
- 4つのワンタッチプリセット呼出しボタン

コントローラから送られるMIDIデータ：

- MIDI コントロールナンバー
- RPN/NRPN
- プログラム、バンクLSB、バンクMSB
- ピッチベンド
- GM/GM2/XG システムエクスクルーシブメッセージ

ボタンから送られるMIDIデータ：

- ノートオン
- ノートオン/オフ切換え
- MIDI CC オン/オフ切換え
- プログラム、バンクLSB、バンクMSBプリセット
- MMC (MIDI Machine Control) 機能
- GM/GM2/XG システムエクスクルーシブメッセージ

便利な機能：

- すべてのコントローラにMIDIコントローラナンバーをアサイン可能
- すべてのコントローラにMIDIチャンネルをアサイン可能
- フェーダを使用したドローバー機能
- コントローラミュート機能で、コントローラからの送るを停止してパラメータジャンプを防止
- Sys Ex (システムエクスクルーシブ) を使用したメモリーダンブ
- 専用のライブラリアンを使用したセットアップの保存/管理
- 33個のメモリーロケーションに33個のプリセットを保存

注意： 静電気の放電や電氣的ファストトランジェント（過渡電流）、誘導無線周波数の干渉によって、本製品が正常に動作しなくなることがあります。その場合は、一度電源を外して再度接続してみてください。

目次：UC-33e 初級編マニュアル

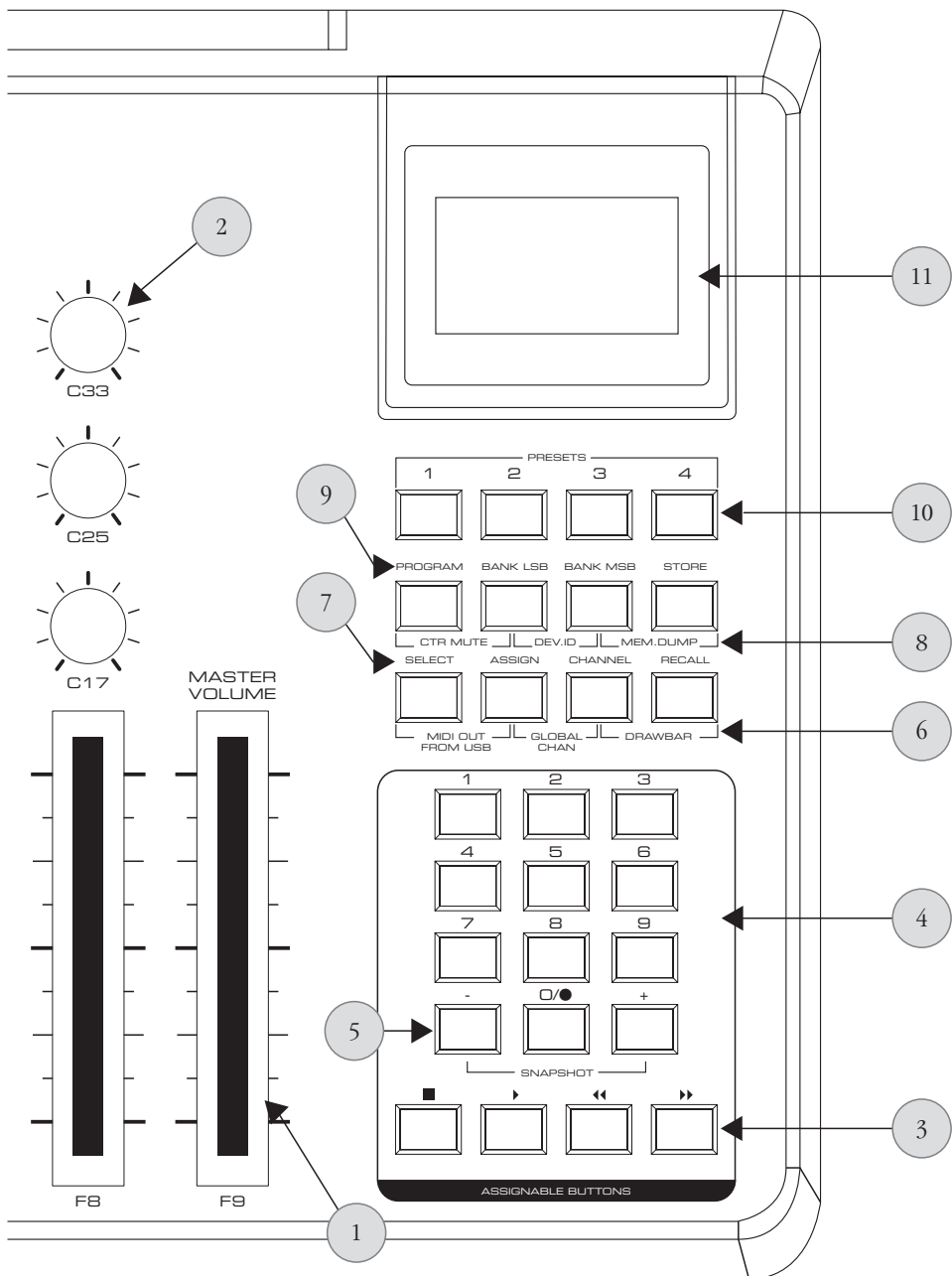
はじめに	1
UC-33e の主な機能	1
目次：UC-33e 初級編マニュアル	2
目次：UC-33e 上級編マニュアル (PDF)	3
UC-33e 全体図	4
インストール	
パッケージの内容	6
マニュアルについて	6
UC-33e を接続する前に	6
電源供給と USB 接続	6
Windows XP と Mac OS X	6
Windows 98/ME でのドライバインストール	7
Windows 2000 でのドライバインストール	7
Apple Mac OS 9.x でのドライバインストール	7
UC-33e OMS ドライバのインストール	8
OMS のセットアップ	8
外部電源の使用	8
クイックガイド	
UC-33e の概要	9
UC-33e の動作テスト	9
プリセットの呼出し	9
Native Instruments B4	10
Reason Subtractor	10
Native Instruments FM7	11
Sound Blaster の活用	11
Cubase VST/SL/SX と Nuendo	11
Emagic Logic	12
Evolution Sound Studio Pro II	13
プリセットの保存と並べ換え	14
パラメータジャンプの防止	14
プログラミング操作の基本	15
UC-33e をスタンドアロンで使用する	16
トラブルシューティング	18
お問い合わせについて	19

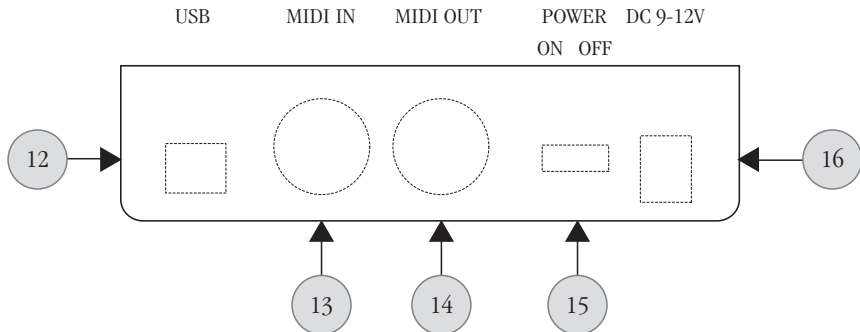
目次：UC-33e 上級編マニュアル (PDF)

上級編マニュアルについて	2
用語	2
簡単な操作で使用できる機能	
プログラムチェンジ	4
バンクチェンジ	4
スナップショットの送信	4

コントローラのミュート	5
ドローバーモード	5
UC-33e プログラミングと編集	
プログラミングオプション	8
編集で使用するコントローラを選択	9
MIDI CC のアサイン	10
MIDI チャンネルのアサイン	10
グローバル MIDI チャンネルの変更	10
アサインボタンを使用した設定値の切換え	11
RPN/NRPN, GM1&2 SysEx, その他のメッセージ	11
ボタンに MMC コントローラをアサインする	11
フェーダ/ロータリーコントローラに RPN/NRPN をアサインする	12
ボタンにノートをアサインする	13
SysEx メッセージとデバイス ID について	13
不揮発性メモリ	14
メモリダンプ	14
デバイス ID のアサイン	14
工場出荷状態の復元	14
MIDI 入出力と MIDI メッセージ	
MIDI 入出力の信号の流れ	16
MIDI 入力端子	16
MIDI 出力端子	16
プログラム/バンクチェンジについて	17
RPN/NRPN について	17
システムエクスクルーシブ (SysEx) について	18
Evolution ライブラリアンソフトウェア	
Evolution ライブラリアンソフトウェアについて	20
Evolution ライブラリアンソフトウェアのインストール	20
ライブラリアンソフトウェアのセットアップ	21
ライブラリアンの概要	21
受信したプリセットの並べ換え	21
プリセットの内容の表示	22
セットアップの保存	22
セットアップのロード	22
ライブラリアンの機能開発	22
付録 A～G	
付録 A：MIDI Implementation Chart	24
付録 B：UC-33e でアサイン可能な MIDI CC	25
付録 C：16 進数 換算チャート	27
付録 D：MIDI データ一覧	28
付録 E：MIDI CC 一覧	30
付録 F：Roland JW/XP で対応する Roland GS/Yamaha XG の NRPN	31
付録 G：GM のリバーブとコーラストイプ	31
付録 H：UC-33e プリセット一覧	32

UC-33e 全体図





1. MIDI アサイナブルな 70mm ストロークのフェーダ 9 本 (F1 ~ F9)
2. MIDI アサイナブルなロータリーコントローラ 24 個 (C10 ~ C33)
3. MIDI アサイナブルな 4 個のボタン (C34 ~ C37)
4. MIDI アサイナブルな 10 個のボタン (C38 ~ C47)。エディットモードでは、0 ~ 9 の数値キーとして使用。
5. + ボタン / - ボタン。2 つを同時に押すと、スナップショットコマンドを送出します。
6. 特定のファンクションキーを組み合わせて 2 つ同時に押すと、ドローバーモード、グローバル MIDI チャンネル、USB からの MIDI 出力の各機能を使用することができます。
7. ファンクションキー。プリセットの呼出し、個々の MIDI チャンネルアサイン、コントローラアサイン、コントローラセレクトの各機能で使用します。
8. 特定のファンクションキーを組み合わせて 2 つ同時に押すと、メモリーダンプ、デバイス ID、コントローラミュートの各機能を使用することができます。
9. ファンクションキー。プリセットの保存、DATA MSB、DATA LSB、プログラムチェンジの各機能で使用します。
10. 4 つのワンタッチプリセット呼出しボタン。01 ~ 04 のプリセットを呼び出します。
11. バックライト付き LCD ディスプレイ
12. USB In/Out。同梱の USB ケーブルを使用して、コンピュータの USB 端子に接続します。
13. MIDI 入力端子。MIDI ケーブル (DIN 5 ピン、別売) を使用して、他の MIDI 機器と接続します。
14. MIDI 出力端子。MIDI ケーブル (DIN 5 ピン、別売) を使用して、他の MIDI 機器と接続します。
15. 電源オン/オフスイッチ
16. DC 電源アダプタ入力コネクタ。9V の DC 電源アダプタ (別売) を接続します。

パッケージの内容

Evolution UC-33e のパッケージには、以下の製品が入っています。

- UC-33e コントローラ本体
- 初級編マニュアル
- Evolution インストーラ CD-ROM
- USB ケーブル
- 4 枚のオーバーレイ（セッティングシート）

欠品のあった場合には、お手数ですが本製品をお買上げ頂いたディーラーまでご連絡下さい。

マニュアルについて

本書では、UC-33e の基本的な操作について説明しています。P.4 には UC-33e の全体図を掲載し各部に番号を付けました。この図中の番号は、本文中の記述でも使用しています。

プログラミングをはじめとした複雑な機能については、上級編マニュアルで説明しています。上級編マニュアルは、Evolution インストーラ CD-ROM 内に、電子データ（Adobe 社の PDF フォーマット）として保存されています。このファイルを開くには、Adobe® Reader® をインストールする必要があります。Evolution インストーラ CD-ROM 内には、このソフトウェアも含まれていますので、必要に応じてインストールして下さい。

UC-33e を接続する前に ...

パッケージの開封後は、UC-33e の接続を行う前に必ずインストール関連書類に目を通して下さい。電源は、USB または外部電源を使用することができます。どちらか一方を選択して下さい。

電源供給と USB 接続

1. UC-33e 背面の電源オン／オフスイッチ（図中 15）がオフになっていることを確認します。
2. パッケージに同梱の USB ケーブルを、コンピュータの USB ポートに接続します。
3. USB ケーブルのもう一方の端子を、UC-33e に接続します。

USB ケーブル 1 本で、UC-33e の電源を供給するだけでなく、コンピュータと UC-33e の間で MIDI データを送受信することもできます。

Windows XP と Mac OS X

Windows XP または Mac OS X をご使用の場合は、USB ケーブルを接続したら、電源オン／オフスイッチをオンにします。UC-33e はクラスコンプライアント*なので、特にドライバなどをインストールする必要はありません。（*Class compliant : Windows XP や Mac OS X の場合、ドライバをインストールしなくても動作する機器。Evolution 製品は、USB MIDI クラスに対応しています）

Windows 98/ME でのドライバインストール

1. コンピュータを起動します。
2. Evolution インストーラ CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
インストーラの画面が自動的に表示されます。表示されない場合は、[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、d:\autorun と入力 (CD-ROM ドライブが D ドライブの場合) して、Enter キーを押します。
3. [Driver] をクリックします。
4. 画面上の指示に従って、インストールを行います。
5. インストールが完了したら、セットアップを終了します。
6. UC-33e の電源オン/オフスイッチ (図中 15) をオンにします。

USB ドライバと MIDI ドライバのインストールが完了し、UC-33e を使用する準備ができました。すでに Evolution のデバイスがインストールされている場合には、コンピュータを再起動するかどうかの確認メッセージが表示されます。

Windows 2000 でのドライバインストール

1. コンピュータを起動します。
2. Evolution インストーラ CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
インストーラの画面が自動的に表示されます。表示されない場合は、[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、d:\autorun と入力 (CD-ROM ドライブが D ドライブの場合) して、Enter キーを押します。
3. [Driver] をクリックします。
4. 画面上の指示に従って、インストールを行います。
5. インストールが完了したら、セットアップを終了します。
6. UC-33e の電源オン/オフスイッチ (図中 15) をオンにします。
UC-33e は自動的に認識され、Evolution インストーラ CD-ROM を挿入するようメッセージが表示されます。
7. Evolution インストーラ CD-ROM をドライブに挿入し、[OK] をクリックします。
8. ドライバがデジタル署名されていないというメッセージが表示された場合は、[Continuous Installation] をクリックします。
9. 再度ドライブを選択します。
10. [OK] をクリックします。これで、UC-33e を使用する準備ができました。

Apple Mac OS 9.x でのドライバインストール

OMS がインストールされていない場合は、まず OMS インストーラを実行して下さい。OMS のインストールが完了している場合は、P.8 の「UC-33e OMS ドライバのインストール」に進んで下さい。

1. Evolution インストーラ CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. デスクトップ上で、Evolution インストーラ CD アイコンをダブルクリックします。
3. OS 9 フォルダをダブルクリックします。
4. Install OMS 2.3.8 をダブルクリックします。
5. 画面上の指示に従って、インストールを行います。
6. OMS のインストールが完了するまで少し時間がかかります。インストールが完了すると、Macintosh を再起動するダイアログボックスが表示されます。ここで、[Restart] をクリックします。

UC-33e OMS ドライバのインストール

1. OS 9 ウィンドウ内の USB Drivers Installer をドラッグして、デスクトップに移動します。
2. アイコンをダブルクリックします。ウィンドウが表示されたら、[Open] をクリックします。
3. デスクトップ上に新たに作成された USB Drivers Installer をダブルクリックします。
4. [Install] をクリックします。
ドライバは自動的にシステムフォルダの正しい場所にインストールされます。
5. ドライバのインストールが完了したら、[Restart] をクリックします。
6. UC-33e の電源オン／オフスイッチ (図中 15) をオンにします。

OMS のセットアップ

OMS セットアッププログラムを起動します。

1. “Opcode” フォルダ、“OMS Applications” フォルダ、“OMS Setup” フォルダの順に開きます。
2. AppleTalk をオンまたはオフにするようメッセージが表示された場合は、いずれかのオプションを選択します。
ここでは、どちらを選択しても OMS Setup に影響はありません。
3. 次に表示されたウィンドウで、[OK] をクリックします。
4. [Search] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。
6. 再度 [OK] をクリックします。
7. [Save] をクリックします。
8. メッセージが表示された場合は、[Replace] をクリックします。

Setup の最後のウィンドウが開き、現在の Studio Setup が表示されます。

QuickTime Music が無効になっている場合は、これをダブルクリックし、“ON” の円をクリックし、有効にします。最後に [OK] をクリックします。

これで、UC-33e を使用する準備ができました。ご使用の MIDI を扱うソフトウェア (シーケンサなど) 上で、UC-33e が MIDI 入力用の機器として設定されていることを確認して下さい。

外部電源の使用

本製品では、電源アダプタ (別売) を使用することもできます。

電源アダプタの仕様: DC 9V, 500mA, センタープラス (+)

電源アダプタを使用する場合は、USB から電源を取らないようにして、DC 電源アダプタ入力コネクタ (図中 16) に電源アダプタのコードを差し込んで、電源オン／オフスイッチ (図中 15) をオンにしてください。

注: 本製品を長時間使用しない場合は、アダプタをコンセントから抜いて下さい。

UC-33e の概要

これで、ドライバなどのインストール作業が終了しました。ここからは UC-33e について説明します。

UC-33e は次のようなコントローラを備えた USB コントローラです。

- ALPS 製のフェーダ 9 本 (F1 ~ F9) (図中 1)
- ロータリーコントローラ 24 個 (C10 ~ C33) (図中 2)
- MIDI ボタン (B34 ~ B47) (図中 3・4)

合計 47 個のコントローラはすべて MIDI アサイン可能です。また、8 個のファンクションキー (図中 6・7・8・9) やバックライト付き LCD ディスプレイ (図中 11)、4 つのワンタッチプリセット呼出しボタン (図中 10) なども用意されています。8 個のファンクションキーには、様々なプログラミングや操作を割り当てることができます。バックライト付き LCD ディスプレイには、現在操作している内容の情報が表示されます。4 つのワンタッチプリセット呼出しボタンを使用すると、UC-33e のプリセット 1 ~ 4 を簡単に呼び出すことができます。

UC-33e の動作テスト

UC-33e と使用するソフトウェアが通信しているかどうかを確認します。多くのソフトウェアには、MIDI IN のインジケータが用意されています。このインジケータを使用して、任意のコントローラを操作しているときにソフトウェアがデータを受信していることを確認して下さい。データが受信されていない場合は、ソフトウェアの入力機器として UC-33e の USB ドライバが選択されているかどうかを確認して下さい。設定方法はソフトウェアによって異なります。詳細は、ご使用のソフトウェアの取扱説明書をお読み下さい。

プリセットの呼出し

UC-33e からの信号をソフトウェア側で受信するのを確認したら、33 種類のプリセット (プログラム済み) を使用してみましょう。

1. ファンクションキー “RECALL” (図中 7) を押します。
2. 使用するプリセット番号を、数値キー (図中 4) で入力します。

プリセット 1 ~ 4 については、4 つのワンタッチプリセット呼出しボタン (図中 10) で簡単に呼び出すことができます。頻繁に使用するプリセットについては、プリセット 1 ~ 4 に保存しておくくと便利です。UC-33e には、以下のプリセットが用意されています。

01 Cubase Multi-channel Mixing (1-8) +Channel Strip	18 Waldorf PPG Wave2V
02 Native Instruments B4	19 Native Instruments FM7 - uc33e.f7c file needed
03 Native Instruments Pro-53	20 Rebirth - Master Controls and Synths
04 Reason Mixer	21 Rebirth Drum Modules
05 Reason Maslstrom	22 AAS Lounge Lizard
06 Reason Subtractor	23 CM DS-404
07 Reason NN-19	24 CM SR-202
08 Reason Dr.Rex	25 CM 101
09 Reason ReDrum	26 TC-Works Mercury-1
10 Cubase Multi-channel Mixing (9-16)	27 Big Tick Audio Rainbow Synth
11 Logic Channel Strip	28 GS/XG/GM2 Synth Control
12 Sound Studio Pro II 1-8 Mixer	29 GS/XG Drum Mixer
13 Sound Studio Pro II 9-16 Mixer	30 SoundBlaster Cards Synth Control
14 Sonar Preset - Sonar 2 preset patch needed	31 User Preset1 Channel Mixer (1-8)
15 Steinberg Model-E	32 User Preset2 Channel Mixer (9-16)
16 Steinberg Halion	33 User Preset3 Undefined Controllers To Global Channel
17 Waldorf Attack	

Native Instruments B4

UC-33e で、Native Instruments 社の B4 を聞いてみましょう。このプリセットをインストールしていない場合は、まず Evolution インストーラ CD-ROM のデモ演奏を聞いてみてください。

1. ワンタッチプリセット呼出しボタン 2 (図中 10) を押します。
現在のプリセット 2 の B4 が選択されます。
2. B4 が起動します。
3. B4 が UC-33e からの信号を受信していることを確認します。
4. B4 オーバーレイ (セッティングシート) を UC-33e の上に置きます。
これで、どのコントローラがどの機能にアサインされているかが分かります。
5. ウィンドウの右上に表示されている B4 のロゴマークをクリックし、Keyboard View から Control View に切り換えます。
6. SNAP SHOT ボタン (図中 5) を押します。
B4 のパラメータ設定が、現在の UC-33e の設定に取り込まれます。

これで、UC-33e だけでパラメータを設定できるようになりました。画面上の設定状態に関係なく、UC-33e での設定状態のサウンドを聞くことができます。

Reason Subtractor

Reason のデモ版も、Evolution インストーラ CD-ROM 内に用意されています。Reason を使用されていない場合は、デモ版を試聴して下さい。Reason が正しくインストールされている場合は、以下の手順に従って操作します。

1. Reason を起動します。
2. デモソングから、Subtractor シンセサイザで演奏されているシーケンストラックを選択します。
3. “in” のコラムに小さな MIDI アイコンが表示されているのを確認します。
表示されていない場合は、マウスを 1 度クリックします。
4. UC-33e の任意のコントローラを操作して、Reason が MIDI 信号を受信していることを確認します。
うまく受信できていない場合は、Reason の [Edit] メニューから [Preferences] を選択し、MIDI ウィンドウに切り換えて MIDI の設定状態を確認して下さい。[Port] ポップアップメニューで UC-33e のドライバを選択して下さい。
5. ファンクションキー “RECALL” (図中 7) を押します。
6. 数値キーを使用して、“06” と入力します。
これで、Subtractor の設定がロードされました。

B4 と同様に、オーバーレイ (セッティングシート) を使用することもできます。ブランクのオーバーレイが同梱されていますので、各パラメータ名称をオーバーレイに書き込んで使用して下さい。追加でオーバーレイを購入される場合は、エムオーディオジャパンへお問い合わせ下さい。

Native Instruments FM7

FM7 のプリセットを操作するには、FM7 にセットアップファイルをロードする必要があります。

1. FM7 を起動します。
2. FM7 の [Master] セクションを選択します。
3. FM7 の Controller Define ウィンドウで、[Load] をクリックします。
4. Evolution インストーラ CD-ROM 内の “UC-33e Application Files” フォルダを選択します。
5. “UC-33e.f7c” ファイルを選択します。
6. ファンクションキー “RECALL” (図中 7) を押します。
7. 数値キーを使用して、“19” と入力します。

Sound Blaster の活用

Windows PC の音源カードとしてもっとも多く使用されているのが、Sound Blaster (Creative Labs 製) です。多くの Windows PC にインストールされていますが、どのようなサウンドエンジンが搭載されているかはあまり知られていません。すべてのパラメータにアクセスすることは容易ではありませんが、Evolution の UC-33e を使用すれば、Sound Blaster のサウンドカードを十分に活用することができます。以下では、具体的な操作方法を説明しています。

1. ファンクションキー “RECALL” (図中 7) を押します。
2. 数値キー (図中 4) で、“30” と入力します。
これで、SoundBlaster の設定がロードされました。
3. MIDI シーケンサを起動し、MIDIトラックを選択します。
4. MIDIトラックの出力先を、“SB Live! Synth” または “SB Audigy Synth” に設定します。
5. UC-33e のフェーダやコントローラを押しながら、鍵盤を弾きます。

UC-33e は、内部の拡張プログラミングオプションを使用して、Sound Blaster のフィルタやパラメータをコントロールします。

Cubase VST/SL/SX と Nuendo

Cubase と Nuendo には広範囲にわたるコントロールオプションが用意されていますので、UC-33e と組み合わせ使用すれば、思うようにコントロールすることができます。プログラム済みのセットアップを使用すれば、もっとも簡単にコントロールすることができます。

マルチトラック／チャンネルストリップミキシング

1. Steinberg のソフトウェアを起動します。
2. [Device] メニュー (Cubase VST では [Options]) メニューから [Device Setup] を選択します。
3. [Generic Remote] を選択します。
4. ウィンドウ右側の [Import] をクリックします。
5. Evolution インストーラ CD-ROM を挿入します。
6. UC-33e Application Files\Cubase¥のディレクトリ内で “UC-33e SX Multichannel and channel strip.xml” を選択し、[Open] をクリックします。
7. Generic Remote ウィンドウで、[MIDI IN] を選択します。

8. UC-33e ドライバを選択します。
9. [OK] をクリックして Device Setup を閉じます。
10. [Device] メニューから [Generic Remote] を選択し、Generic Remote ウィンドウを開きます。
このウィンドウで各項目を選択することにより、1～48 のマルチチャンネルとチャンネルストリップを簡単に切り換えることができます。
11. UC-33e で、プリセット 1 を選択します。
プリセット 1 では、ソフトウェアの Generic Remote ウィンドウでどのセッティングが選択されているかによって、チャンネル 1～8,17～24,33～40 をコントロールします。
12. Generic Remote ウィンドウで、[Channel strip] を選択します。
チャンネルストリップでは、送出レベルや 4 バンド EQ、FX インサート、ボリューム、L/R とフロント／リアのパン、出力先選択、マスタボリュームの各設定を行うことができます。この設定で、ミキサ上で選択されているチャンネルをコントロールするので、簡単にチャンネル間を移動することができます。
13. プリセット 10 を選択し、Generic Remote ウィンドウでチャンネル 9～16・25～32・41～48 の設定を行います。

オリジナルの Generic Remote セットアップを作成する

プリセットでの作業を終えたら、ユーザ独自の作業環境に合うようにオリジナルのセットアップにカスタマイズします。詳細は、Steinberg の説明書を参照して下さい。

注：すでにオリジナルの Generic Remote セットアップを作成している場合は、まずオリジナルのセットアップをエクスポートしてから U-Control セットアップをインポートして下さい。

Emagic Logic

UC-33e から Logic のミキシング機能をコントロールできるよう、Logic 用の操作環境を用意しました。

1. Evolution インストーラ CD-ROM で、application files\Logic¥ のディレクトリを選択します。
2. Logic のソングファイル “UC-33e setup” を Logic に取り込みます。
3. Logic の Windows メニューで [Global Mixer] を選択します。
4. UC-33e で、プリセット 011 を呼び出します。
5. Channel Strip オーバーレイ（セッティングシート）を UC-33e に乗せます。

これで、現在選択されているトラックに対し、ボリュームやパン、ソロ／ミュート、SEND、4 バンド EQ をコントロールできるようになりました。プログラム済みのセットアップでは、パラメトリックイコライザのアルゴリズムが選択されていますが、任意の機能に変更して使用することができます。各チャンネルのイコライジングは、UC-33e チャンネルストリップの EQ On/Off スイッチを使用して、個別に切り換える必要があります。

Evolution Sound Studio Pro II

1. プリセット 12 を選択します。
2. Evolution インストーラ CD-ROM の Demo フォルダから、Sound Studio Pro II Demo をインストールします。
3. Sound Studio Pro II Demo を起動します。
4. [Options|MIDI Devices] メニューで、MIDI IN のデバイスに UC-33e が選択されていることを確認します。また、MIDI OUT にはご使用のサウンドカードを選択します。MIDI OUT では、1 種類のデバイスだけを選択して下さい。
- 5.トラックウィンドウで、[Multitrack Record] を選択します。
6. ツールバーの Mixer アイコンをクリックして、MIDI Mixer を呼び出します。

各コントローラでコントロールできるのは、チャンネル 1～8 の以下の項目です。

コントローラ 1～8: ボリューム ● コントローラ 9～16: パン ● コントローラ 17～24: リバース ● コントローラ 25～32: コーラス ● マスタフェーダ: ドラムチャンネルのボリューム (ドラムがチャンネル 10 にアサインされている場合)

UC-33e のコントローラを操作して、MIDI ミキサが連動するのを確認してみましょう。

トランスポートバーの [MIDI plug] ボタンをクリックすると、トランスポートバーの機能をリモートコントロールすることができるようになります。トランスポートバーの各機能は、UC-33e のボタンに割り当てられていて、UC-33e から PLAY や STOP・FAST FORWARD・REWIND の各操作を行うことができます。数値キーは、上記以外のトランスポートバーの機能に割り当てられています。RECORD モードを有効にするには、“0” キーを押します。

なお、プリセット 13 はチャンネル 9～16 をコントロールするのに使用します。

プリセットの保存と並べ換え

UC-33e のプリセットについてよく理解できたら、次にプリセットを任意の順に並べ換えをしたり、保存したりしてみましょう。頻繁に使用するプリセット（4つまで）は、ロケーション 01～04 に保存しておく、ワンタッチプリセット呼出しボタンで簡単に呼び出すことができるので便利です。

プリセットは UC-33e の ROM に保存されているので、いつでも元の状態に戻すことができます。

ここでは、例としてプリセット 28 の “GS/XG/GM2 Synth Control” を 03 に移動します。

1. ファンクションキー “RECALL”（図中 7）を押します。
2. 数値キー（図中 4）を使用して、“28” と入力します。
3. ファンクションキー “STORE”（図中 9）を押します。
4. 数値キー（図中 4）を使用して、“03” と入力します。

これで、現在のプリセットが 03 のロケーションに保存されました。

UC-33e を工場出荷状態に戻すには、数値キーの +/- を押したまま、UC-33e の電源スイッチをオンにします。

注：プリセットを工場出荷状態に戻すと、メモリーに保存されていた設定はすべて消去されます。

また、Windows PC では Evolution ライブラリアンソフトウェアを使用してプリセットの並べ換えを行うこともできます (Macintosh 版はエムオーディオジャパンの Web サイト、<http://www.m-audio.co.jp> にてご確認ください)。このライブラリアンソフトウェアは、Evolution インストーラ CD-ROM 内に用意されています。Evolution インストーラ CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入し、インストーラを起動して下さい。

パラメータジャンプの防止

作業を最初から行う場合、SnapShot 機能を使用して、音源と UC-33e の設定を同期させておくことはとても重要なことですが、場合によっては、パラメータの設定値が大きく動かないように設定しておく必要があります。

このような場合は、コントローラミュート機能を使用します。

1. ファンクションキー “CTR MUTE”（図中 8）を押します。
2. ソフトウェアのセッティングに合わせて、UC-33e のコントローラを動かします。
3. 再度ファンクションキー “CTR MUTE”（図中 8）を押して、コントローラミュートモードを解除します。

プログラミング操作の基本

プリセットについてよく理解できたら、次に基本的な設定のプログラミングと変更を行います。

ここでは、Reason を例として手順を説明します。

1. Reason を起動します。
2. Reason で任意のトラックを選択し、MIDI データが受信されていることを確認します。
3. そのトラックにアサインされているデバイスを “Reverb” に変更します。
トラックの矢印ボタンをクリックし、マウスボタンを押したままにすると、“Reverb” に変更することができます。
4. UC-33e のファンクションキー “RECALL” (図中 7) を押します。
5. 数値キー (図中 4) を使用して、“33” と入力します。
このプリセットは比較的シンプルな構造なので、新たにプログラムを始める際のベースとして使用すると便利です。
6. フェーダ 1 (図中 1) を動かします。
7. ファンクションキー “ASSIGN” (図中 7) を押します。
8. 数値キー (図中 4) を使用して、“012” と入力します。
フェーダを動かすと、LCD 画面左側に 01 と 12 が表示されます。この番号は、プログラムしたコントローラの番号を表しています。この状態でフェーダを動かすと、Reason の Reverb のパラメータをコントロールすることができます。

フェーダ 2 を動かして、画面の表示がどのように変化するか確認してみてください。この表示によって、フェーダ 2 が選択され、コントローラ番号 21 がアサインされていることが分かります。

1. ファンクションキー “ASSIGN” (図中 7) を押します。
2. 数値キー (図中 4) を使用して、“14” と入力します。

LCD 画面左側に 02 と 14 が表示されます。この番号は、プログラムしたコントローラ番号を表しています。

この状態でフェーダを動かすと、Reason の Reverb の Decay パラメータをコントロールすることができます。

このまま作業を続行し、オリジナルのセットアップを作成することもできますが、この状態を残しておきたい場合は、必ずプリセットロケーションに保存して下さい。

UC-33e のプログラミングについての詳細は、上級編マニュアルを参照して下さい。

Reason の Reverb のコントローラ番号など、各情報については、その製品の取扱説明書を参照して下さい。

UC-33e をスタンドアロンで使用する

UC-33e は、コンピュータに接続しないでスタンドアロンで使用することができます。この場合は、電源アダプタ (P.8 で解説) と MIDI ケーブルを用意して下さい。

用途としては以下が考えられます。

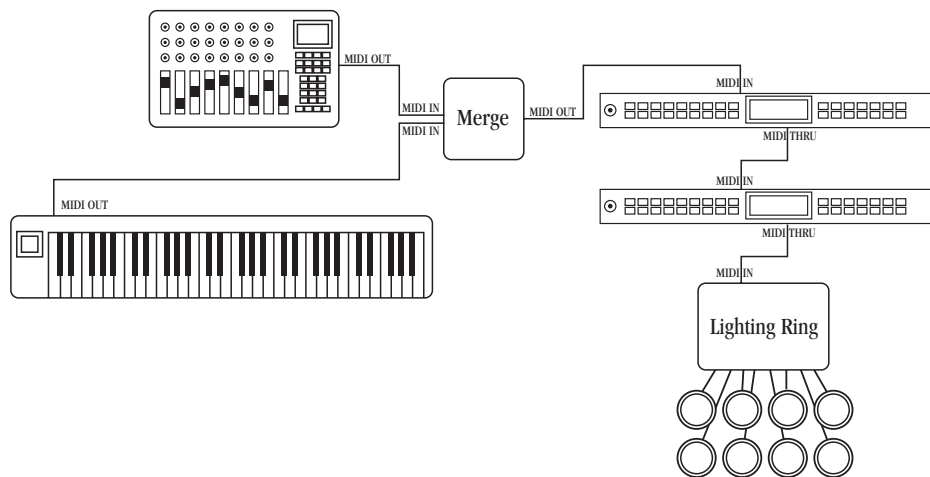
- MIDI を使用した照明システムをコントロール
- UC-33e を使用して、MIDI コントローラの拡張パラメータをコントロール
- 外部音源モジュールのコントロール

注意点：

UC-33e は、MIDI マージユニットとして使用することはできません。例えば、MIDI キーボードでコントロールしている音源モジュールを、UC-33e でも同時にコントロールする場合、別途で MIDI マージユニットを用意する必要があります。これで、UC-33e と MIDI キーボードの両方を音源に接続することが可能になります。

使用例 (a)

(a) コントローラキーボードと UC-33e を 2 台の音源モジュールと照明機器に接続



この例では、MIDI コントローラキーボードと UC-33e を MIDI マージユニットに接続します。マージユニットからの MIDI OUT は音源モジュール (a) に接続します。音源モジュール (a) の THRU 端子から音源モジュール (b) に接続します。そして、音源モジュール (b) の THRU 端子から MIDI 照明機器に接続します。

各音源モジュールでは、以下の MIDI チャンネルを受信できるように設定します。

音源モジュール (a) : 1 ~ 7

音源モジュール (b) : 8 ~ 14

MIDI 照明機器は、15・16 チャンネルを受信するように設定します。

MIDI コントローラキーボードや UC-33e から各セットアップをインタラクティブにコントロールするには、さまざまな方法があります。最初の 4 つのフェーダからは MIDI チャンネル 1～4 に、次の 4 つのフェーダからは MIDI チャンネル 8～12 に送出するように設定します。ボリュームをコントロールするには、各フェーダから MIDI コントローラナンバー 7 が送出されるように設定します。

同じ MIDI チャンネルを使用して、ロータリーコントローラでフィルタレゾナンスやカットオフ、パンをコントロールするよう設定することができます。音源モジュール (a) が XG 対応音源の場合は、一番上のロータリーコントローラには MIDI コントローラナンバー 74 を割り当ててカットオフをコントロールし、次のロータリーコントローラには 71 を割り当ててレゾナンスをコントロールすることができます。パンをコントロールするには、MIDI コントローラナンバー 10 を割り当てます。音源モジュール (b) が GS 対応音源の場合は、第 2 グループのフェーダの上にあるロータリーコントローラで NRPN を送出して、フィルタレゾナンスやカットオフをコントロールできるように設定します。

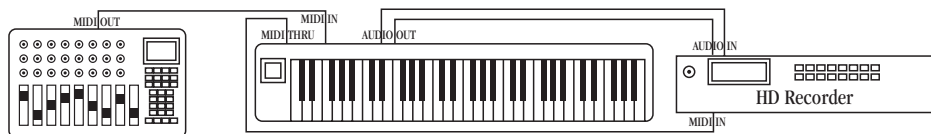
音源モジュール (a) と (b) で、カットオフやレゾナンスコントロール信号の受信方法が異なっている場合でも、それを考慮に入れてプログラミングするのは難しくありません。

次に、数値キー 1～9 から MIDI ノートデータを送信し、照明機器のスイッチをトリガするように設定します。数値キーは、ラッチオン/オフとしてプログラムすることも、また、数値キーから手を離れたときにノートオフ信号を送出するようにプログラムすることも可能です。この 2 通りの設定を使い分けて、ある数値キーでは照明をフラッシュさせ、別の数値キーではスイッチのように点灯/消灯させることができます。照明制御装置の中には、ペロシティカーブを使用して、照明の強さや明るさをコントロールするものもあります。各ライトが異なった強さで点灯するように、それぞれのボタンに個別のペロシティを設定することができます。

設定が完了したセットアップをメモリーに保存しておけば、他の MIDI 機器を複雑に組み合わせた設定でも、UC-33e から簡単にコントロールすることができます。

使用例 (b)

(b) MIDI シンセサイザとハードディスクレコーダのコントロール



この例では、UC-33e をシンセサイザに接続し、シンセサイザの THRU 端子からハードディスクレコーダに接続します。これで、フェーダやロータリーコントローラを使用して、シンセサイザのパラメータをリアルタイムにコントロールできるようになります。分かりやすい例としては、マルチティンバー音源を UC-33e のフェーダでコントロールする方法です。このように設定しておけば、演奏中、リアルタイムに音色を変化させることができます。ロータリーコントローラは、シンセサイザのエンベロープをコントロールするように設定してみてください。

UC-33e のトランスポートボタンは、MMC (MIDI Machine Control) を送出して停止や再生、巻戻し、早送りができるように設定します。また、数値キーの 0 (ゼロ) は、録音を行うように設定します。これで、UC-33e からハードディスクレコーダをコントロールできるようになります。

さっそく録音を開始してみましょう。演奏が終わりに近づいたら、マスタボリュームフェーダを使用してフェードアウトすることも可能です。

トラブルシューティング

- インストールを終えて演奏を始めたら、コントローラが突然動作しなくなった

電源スイッチをオフにして10秒ほど待ち、コンピュータを再起動して使用してみてください。それでも問題が解決しない場合は、ドライバを再インストールして下さい。

- デバイスマネージャではドライバが認識されていて、通常に動作しているように見えるが、ソフトウェアではUC-33eを認識することができない

Windows 2000やWindows XPでは、一度にインストールすることができるMIDIデバイスドライバの数に制限がありますが、その最大数に達している場合でも、警告などが表示されることはありません。このため、ドライバは問題なくインストールされているように見えます。

解決方法：エムオーディオジャパンのWebサイト <http://www.m-audio.co.jp/download/index.html> を開き、この問題に関するリンクをクリックして下さい。リンク先から実行ファイル（.exe ファイル）をダウンロードして実行すると、この問題を解決することができます。

- 音が遅れて聞こえる

この遅れは、レイテンシーと呼ばれています。

MIDIを扱う上でのレイテンシーは、ご使用のソフトウェアシンセサイザが原因で発生します。MIDIデータは単純なコントロール信号に過ぎません。MIDIデータを受信したソフトウェアシンセサイザは、膨大で複雑な演算を行って、そのサウンドを生み出します。ここで時間がかかるために、レイテンシーが発生します。

レイテンシー防止のために、エムオーディオ製品のオーディオカードをご使用になることをお勧めします。エムオーディオ製品は、高品質で様々な環境に適したラインナップを用意しています。すでにオーディオカードをご使用の場合は、最新のドライバを再インストールしたり、オーディオドライバのバッファサイズを小さくしたりすることをお勧めします。オーディオドライバのバッファサイズを小さくするには、Sound Studio IIやSound Studio Pro IIの[Audio]メニューから[Audio system settings]を選択します。ここで、MMEやASIOドライバのバッファサイズを小さくすることができます。

- Evolution ソフトウェアからのサウンドが聞こえない

ソフトウェアシンセサイザのOptionsまたはDevicesメニューで、MIDIの入出力システムを確認します。

MIDIの入力側は確認できても、出力側のドライバ名称が表示されていない場合は、サウンドカードを再インストールするか、最新のドライバにアップデートする必要があります。出力側の設定では、どのドライバを使用して音を出すかを選択することができます。ほとんどのサウンドカードでは、FM synthやSBLive Synthなどの選択肢が用意されています。ここで、任意のドライバ名称を選択して、MIDIの再生で使用する音源を選択します。サウンドチップを使用する場合は、Microsoft SW synthなどのソフトウェアシンセサイザを選択します。

ヒント：出力側で多数のドライバが有効（青のハイライト表示）になっていても音が聞こえない場合は、すべてを選択解除して、1つずつ選択してみてください。

お問い合わせについて

安全上のご注意

Evolution 製品本体内に取り付けられている電子部品・基板の配線パターン、USB コネクタ部分に無理な力を加えたり、部品を分解したりしないで下さい。感電、火災、故障などの原因になります。次のような場所での使用や保存はしないで下さい。温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の近くなど）水気の近くや湿度の高い場所・ホコリの多い場所・振動の多い場所

製品保証について

安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合には、本製品をお買い上げ頂いた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら不適切な使用方法による損傷や、保証書に購入店での手続きが無い場合には製品保証は無効になります。日本国内保証書は、必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管して下さい。

修理に関しては、原則として日本国内保証書を同封の上、株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートへの送付が前提です。送付される場合には、発送時の費用はお客様が負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

送付先：

〒：460-0002

住所：愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10

電話：052-218-0859

社名：株式会社エムオーディオジャパン

担当部署：カスタマーサポートサービス

安全上のご注意を怠りますと、株式会社エムオーディオジャパンでの修理サービスを受けることができなくなりますので、十分にご注意下さい。

ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して返信して頂ければ、弊社製品のユーザーとして御登録致します。尚、ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。また、オンラインでのユーザー登録を以下の Web サイトにて受け付けております。
<http://www.m-audio.co.jp/register/index.html>

技術的なお問い合わせについて

不明瞭な部分・疑問点などございましたら、株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートサービスまでお問い合わせ頂く前に、株式会社エムオーディオジャパン Web サイトの FAQ 情報、本ユーザーズガイド共ご確認下さい。

株式会社エムオーディオジャパンカスタマーサポートサービスをご利用になる場合は、お客様のお名前・製品名・製品のシリアルナンバー・コンピュータの機種名およびスペックの詳細（CPU・メモリ搭載量・接続している周辺機器など）・オペレーティングシステムのバージョン・具体的な不具合の症状を必ずご連絡下さい。また、本製品に対するサポート業務は、ユーザー登録が完了されている方でなければ一切受けられません。コンピュータ、アプリケーションなど、株式会社エムオーディオジャパン取り扱い製品以外の操作方法に関しては一切お答えできませんので、各メーカー及び販売代理店へお問い合わせ下さるようお願い致します。

テクニカルサポート情報：

<http://www.m-audio.co.jp/support/index.html>

メールニュースのお申し込み（無料）：

<http://www.m-audio.co.jp/mail-news/index.html>

お電話によるお問い合わせ：

・052-218-0859（平日 10:00-12:00 / 13:00-17:00）

e-mail によるお問い合わせ：

Macintosh 環境での技術的なお問い合わせ先：

・mac-support@m-audio.co.jp

Windows 環境での技術的なお問い合わせ先：

・win-support@m-audio.co.jp

記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

2004 年 2 月発行 第二版

User's Manual written by Evolution Electronics Ltd.

All rights reserved.

Translation into Japanese and

Japanese edition written by M-Audio Japan Inc.,2004.

All rights reserved.